
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 平成29年度 実施レポート

- 横浜市立 芹が谷小学校 × 飯田茂樹 1
アシスタント：福沢達郎、大森愛子、岩瀬一城

- 横浜市立 勝田小学校 × 尾形直子 2
アシスタント：どうめんさきこ、仁田晶凱

- 横浜市立 北山田小学校 × 宮内康乃 3
アシスタント：横手ありさ、尾形直子

- 横浜市立 上菅田特別支援学校 × MATHRAX 4
ゲストアーティスト：石神ちあき、宮内康乃



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立芹が谷小学校 × 飯田茂樹 未知なる楽器・音に出会い、楽しもう

担当アーティスト 飯田茂樹（日本インドネシア・バリ教育文化協会 代表）／アシスタント：福沢達郎、大森愛子、岩瀬一城

実施校 芹が谷小学校（港南区）

コーディネーター 認定NPO法人STスポット横浜

実施科目・教科名 音楽

実施概要 体験型／民族音楽／3学年2学級46名

実施日程 2017年11月21日(火)、2017年12月5日(火)、2017年12月12日(火)、2017年12月19日(火)



授業のねらい

のびのびと表現することができ、友達と言葉を通してしっかりコミュニケーションできるようなきっかけとしたい。音楽に合わせて身体を動かすなどし、元気に音楽を楽しむ喜びを体感させたい。

主な内容

<1日目>さまざまな種類の鳥笛や口琴などの面白楽器を紹介。インドネシアの民族楽器、ガムラン・アングルンを体験。<2日目>リズムを真似して手を叩くなどのリズム遊びをし、簡単なケチャを楽しんだり、ドラムに合わせてリズムにのせていく楽しさを味わった。後半は、竹の楽器アングルンを体験。<3日目>サンバアフリカをテーマに、数種類のアフリカの打楽器を紹介。スルドのリズムに合わせて演奏されるアーティストたちのパフォーマンスに、子どもたちも自作したマラカスで加わった。<4日目>これまでに触れてきた楽器と、身の周りにありちょっと工夫をするという音の鳴る道具を机の上に並べ、子どもたちに自由に遊んでもらい、各々に好きな音を発見してもらった。最後はピアノと共にサウンドペインティングで即興演奏を行った。

アーティストから

小学3年生にとって身近な存在でありながら楽器という意識はなかった鳥笛やスプーン、音の出るおもちゃ。そしてほとんど触れたことのないバリ島のガムラン、ベトナムの口琴、西アフリカの太鼓やブラジルの民族音楽など。これらを子どもたちは偏見無く受け入れ、そして授業の最後には自分たちの音楽として実に楽しそうに生き生きと演奏、表現してくれました。民族楽器、民族音楽の存在自体が子どもたちにとって魅力的であるということは大前提だと思いますが、音楽の先生、STスポットスタッフ、そして私ども指導・演奏担当の三者が、それぞれの立場から協力し合うことにより初めて成立した授業だと思います。素晴らしいプロジェクトに参画できたことを嬉しく思います。これからも生の

手触りの感覚で、未知なる音楽を子どもたちに近づける活動を積極的に行っていきたいと思っています。

コーディネーターから

好奇心旺盛で元気な子どもたちとのことで、「こどもの城」で長年子どもたちと楽器や音で会話をしてきた民族楽器博士、飯田さんをお願いをしました。一見おもちゃやガラクタに見えても、いくらでも遊び方がある、世界にはそんな楽器や音楽がたくさんある。子どもたちが鳴らす不揃いな音も、ピアノが寄り添い音楽になっていく。そんな新しい物事への好奇心やワクワクを引き出し、子どもたち自ら面白さに気付くことができた時間になったと思います。

先生から

世界（特にインドネシア）の楽器にふれ、普段の音楽で味わえない体験ができました。アーティストの方々が子どもたちに寄り添い子ども目線で楽しい授業をしてくださいました。楽器にできるだけ触れられるように2クラス分けて授業してくださって、子どもの満足感が高かったです。身の回りのもので楽しい音が出せるものもたくさん紹介してくださり、子どもも"音"を身近に感じ、自らも音を創り出そうとする姿勢が見られるようになりました。

子どもたちから

みんなで作った音楽が心に残っている。自由に音が出せて、とっても楽しかったし、すてきな音楽だった。／スプーンで作った楽器がもらえて、とても嬉しかった。／ドラムの演奏がかっこよくて、心に残っている。あんな演奏ができるように、ぼくも練習したい。／アングルンの音がきれいでした。／タンブリンの演奏がかっこよかった。／いろいろな楽器（音楽室にはないもの）がたくさんできた。楽器が好きになった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立勝田小学校 × 尾形直子 身体の動きであそぶ

担当アーティスト	尾形直子 (ダンサー・整体師・ヨガインストラクター) / アシスタント: どうめんさきこ (音楽家・イラストレーター・デザイナー)、仁田晶凱 (ダンサー)
実施校	勝田小学校 (都筑区)
コーディネーター	認定 NPO 法人 S T スポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型 / コンテンポラリーダンス / 個別支援学級 15 名
実施日程	2017 年 9 月 11 日 (月)、2017 年 9 月 20 日 (水)、2017 年 9 月 25 日 (月)、2017 年 9 月 27 日 (水)



授業のねらい

身体を動かし、自分を表現する楽しさや喜びを味わえるような活動を通し、子どもたちの潜在的な創造性を引き出したい。

主な内容

< 1 日目 > 自己紹介と名前ポーズ、動きの真似っこ、笛の音とともに自由に動いてみる < 2 日目 > 1 列になって前の人の動きの真似っこ、ペアになって手と手を合わせて相手をゆっくり動かす、アーティストの太鼓とダンスのパフォーマンス鑑賞、子どもたちも入って即興セッション < 3 日目 > ペアになって一人が目隠しをし、もう一人がゆっくり誘導して動いてみる、楽器の音に合わせてダンス < 4 日目 > 声を出しながら身体を動かす、楽器の音の変化に合わせてダンス、輪になって即興ダンスバトル

アーティストから

4 日間を通じて、一人ひとりと少しずつでも真っ直ぐに向き合うことができたような気がします。「大人だからこうあるべき」という壁を取っ払って、私たちの「本気」を見てもらうことが、子どもたちのなかの、大人になることへの楽しみに繋がればいいな、と思います。勝田小学校の個別支援級の子どもたちは、日本が今、子どもらしい子どもが減っている中で、いい意味で子どもらしく、自由で、感受性が豊かです。縦割りのクラスで、お互いに甘えたり、甘えられたりする、理想的な人間関係が築ける良い環境にいるのも、子どもたちにとっては素晴らしいことだと思います。本当に、4 回ともそれぞれにドラマがありました。まとまりがあった時も、そうでない時も、私たちにとっては大事な時間で、1 日でも欠けていたら最後の集大成には繋がらなかっただろうな、と思います。それくらい毎時間がとても大切に良い時間でした。みんなのこれからの健やかな成長を楽しみにしています。



コーディネーターから

自分の身体、感覚で感じ動いて表現してみることを、丁寧に体験を重ねた 4 回でした。得意不得意、気分が乗る・乗らないがあっても、人を見たり音を聴いたりして、自分のタイミングで、それぞれのやり方で、自分の身体を動かし試していました。動きにどんどんアレンジを加える子、自分の影と踊っているのに気付く子、最後のダンスバトルでは、動きの引き出しが増えた子どもたちの踊りたい欲が爆発し、自信たっぷりに表現していました。

先生から

“人前で身体を使った表現をする”ということに対して、恥ずかしい気持ちがあったのですが、回数を重ねていくごとに、楽しい、次はどんな動きをしてみようかな、という気持ちが芽生えていきました。歳を重ねると、今回のような活動をする機会が減ってきますが、子どもたちと身体を思いきり動かして表現することは素敵だと改めて思いました。

子どもたちから

たいこに合わせておどるのが楽しかった。／てのひらやあしのうらをくっつけておどったのが楽しかった。／たいこをたたいたら「じょうず」と言われてすごくうれしかった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立北山田小学校 × 宮内康乃 オリジナルのケチャづくりに挑戦

担当アーティスト	宮内康乃（作曲家）／アシスタント：横手ありさ（唄い手）、尾形直子（ダンサー・整体師・ヨガインストラクター）
実施校	北山田小学校（都筑区）
コーディネーター	認定NPO法人STスポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／創作／4学年3学級84名
実施日程	2017年11月28日（火）、2017年11月29日（水）、2017年12月13日（水）、2017年12月14日（木）



授業のねらい

声や身体などを使って、精一杯表現できた達成感やクラスや学年の仲間と一緒に頑張れたという一体感を味わいたい。心を開いて思いを伝えたり受け取ったりする楽しさを味わいたい。

主な内容

<1日目>声を使ったゲームや声まねをして声を出すことに慣れる。お茶の名前を使ったリズム遊び「お茶ケチャ」を体験<2日目>目をつむって声や口の音で風、鳥、虫、動物の音をまねして、森の音風景を創りだす。身体の動きをつけてお茶ケチャを体験。オリジナルのケチャ創作のためのアイデア出し<3日目>アイデアをもとにケチャを創作、パートに分かれてやってみる。リズムや語感に合わせて自分たちで動きを考案する<4日目>3クラス合同で、各クラスのオリジナルケチャを発表。全員で森の声、すべてのケチャのパートを混ぜ合わせたパフォーマンスに挑戦。

アーティストから

北山田小の子どもたちは本当にのびのびと自然体で、イキイキした声と身体の動きがどんどん出てきて、アイデアも一瞬のうちに生まれていくことに驚きの連続でした。また4回シリーズとじっくり取り組めたので、子どもたちからのアイデアをもとにオリジナルを作ってみるという試みにも挑戦できました。最後の合同授業では、体育館いっぱい子どもたちの全身全霊の声と動きが重なり合って、北山田小の春を迎えるお祭りが実現でき、お礼に歌のプレゼントもいただき感激でした。また、音楽の山崎先生が内容にも深く興味を持って子どもたちと一緒に楽しんでくださり、のびのびとやらせてくださったことにも深く感謝いたします。

コーディネーターから

普段の音楽で言う“いい声”（歌声）とは異なるいろいろな声やイントネーション、変な動きも、アーティストが率先してやってみせると、子どもたちは目を輝かせて自分たちのアイデアを表現してくれました。友達の異なる声やリズムのアイデアも、重ねたり構成したり影響し合ったりして、面白い作品にすることができると、その過程を体験を通して知ることができた機会だったと思います。

先生から

大きな声を出したり、力いっぱい身体を動かしたりするのが苦手な児童もだんだん雰囲気や圧力に圧倒されて、いつの間にか自分から活動に取り組んでいく様子が見られました。子どもたちをその気にさせ、学年みんなで1つのものを作り上げていく4回の授業の流れがとてもすてきでした。また、普段リズムや拍にのるのが苦手な児童が身体を動かすことで生き生きと活動する様子を見て、音楽と身体の関係をもう一度見直すきっかけとなりました。

子どもたちから

もっとやりたい。／音楽がどんなに楽しかった。／1人の声で低い音や高い音などいろいろな音が出せるんだと思った。／目を閉じて風や鳥などの声を出すと本当に森にいるような気分になった。／ふだん使わない大声を使ったのでストレスがなくなった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上菅田特別支援学校 × MATHRAX 非日常の空間で体験するアート

担当アーティスト MATHRAX(アートユニット)／ゲストアーティスト：石神ちあき(ダンサー)、宮内康乃(作曲家)

実施校 上菅田特別支援学校(保土ケ谷区)

コーディネーター 認定NPO法人STスポット横浜

実施科目・教科名 カルチャーA

実施概要 体験型／メディアアート／高1～3学年11名

実施日程 2018年1月16日(火)、2018年1月30日(火)、2018年2月6日(火)、2018年2月20日(火)



授業のねらい

「感覚を媒体とした身体意識の形成」「社会性、認知、コミュニケーション能力の拡大」を重点に、音や光、手触りや香りなどの体験を楽しむ。

主な内容

<1日目>触れると振動と共に音が鳴り、周囲のスピーカーと連動して光や音が鳴る円盤状の木の作品を使って、身体全体で音や光、他の人とのセッションを楽しむ<2日目>色の変化する光のオブジェと音の作品、ダンサーとのパフォーマンスを鑑賞<3日目>先生方に声を使って音響づくりに参加してもらい、音と光のプロジェクションを楽しむ、生徒も一緒に声を出し音風景をつくる<4日目>触れると音や香りの出る木のオブジェを使って、音や香りが混ざり合っていく変化を体験、一人ひとりの発する声や音をマイクで拾いループさせて音楽を楽しむ

アーティストから

皆さんと一緒に作りあげた音、光、香りの空間は、どれも温かく、繊細で、ただそこにいるだけでお互いの気持ちがつながりあってしまうような不思議な世界が立ち上がってくるのを何度も感じました。アーティストやダンサーや作曲家は、それぞれのアウトプットは違えど、人と人が関わるその間の空気を微細に感じとって表現に変えているのかもしれない。それを皆さんと共に作り上げ、共に感じられたことをとても嬉しく思っています。

コーディネーターから

全4回、MATHRAXさんの作品を存分に体験する時間となりました。作品や仕掛けが面白いということだけでなく、空間や関係性を生み出す・引き出すメディアアートの面白さやその魅力を、感じられたと思います。たとえ微細な音や香りなどの刺激であっても、生徒たちは確かにその変化を受容し、反応していることが分かりました。その微細な反応のやり取りが、子どもたち、アーティスト、先生方間で共有されていて、そのコミュニケーションの在り方がとても尊く感じられました。

先生から

子どもたちと教員の全員で音を出して作り上げる経験ができてよかったです。派手な音は何もないのに光、音、香り、振動、気配などいろいろな刺激に満ちていて、五感だけでない感覚も刺激することができる静かで忙しい空間でした。学習中、「こんな表情もできるんだ」と新たな発見の連続で、学習を終えると、毎回必ず、深いため息や、「終わらないで」と訴えかけるような声が聞こえてきました。コーディネーターさんの子どもたちへの働きかけのおかげで、より深くアーティストさんと関わることができ教員とともに楽しむことができました。